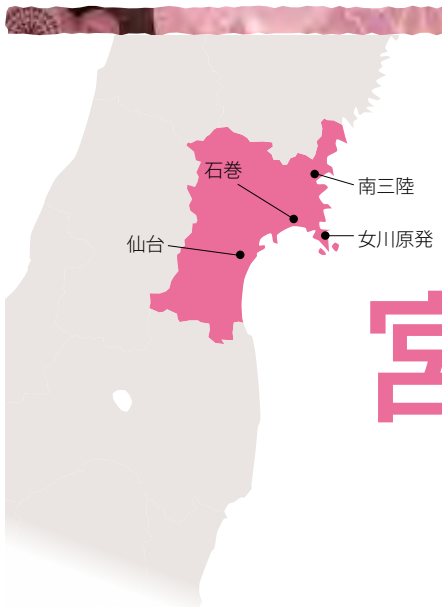

再び被災地 宮城を訪れて

事務局　中島 崇博

高台から今の女川町の話を高野さん（中央下の男性）からお聞きする様子

2011年6月下旬、私は川口弁護士と2人で東日本大震災による津波で甚大な被害を受けた地域（石巻市・南三陸町・陸前高田市・気仙沼市・大船渡市）を訪れました。そこで目にした光景は、今も心の中に焼き付いています。

あれから2年半の月日が流れ、2013年11月下旬、今度は私と川口弁護士を含めた所員10名で、再び被災地を訪れることになりました。今回も、震災直後からそれぞれの立場で活動をされた方々とお話をする機会に恵まれましたが、この記事で、現在の被災地の状況や抱える問題点など、少しでも被災地・宮城の状況を知っていただけたらと思います。

被災地の今 ～石巻市・南三陸町・女川町～

石巻市と南三陸町は2年半前に訪れたこともあり、当時からどれだけ復興に向かっているのかが気になるところでした。

しかし、現地に到着してまず思ったのは「何もない…」でした。数多く存在していた瓦礫の山はきれいに片づけられ、大型トラックがせわしなく動き回り、道路の整備（南三陸町）や土台の嵩上げ作業（女川町）など、復興に向けて前に進んでいるように見えました。しかし、場所によっては更地のまま放置され、雑草が生い茂り、ほんの3年前まで多くの人がそこに住んでいたとは思えない光景が目の前に広がっていました。復興というよりも、二度と人が住むことはない土地になってしまったように見えました。

また、新たに浮き彫りになった問題として被災者間の格差問題があります。富裕層は、既に仮設住宅を出て、新たな人生を歩んでいる一方、まだ多くの方が仮設住宅での生活を強いられています。その多くは一人で暮らす高齢の方や介護が必要な方です（数日前にも仮設住宅内で孤独死された方がいたとのことです）。加えて、行政の意向による簡素な仮設住宅建設により、厳しい生活環境を強いられ続けています（夏は暑く、冬は寒いとのこと）。

前回訪れた当時は、まだ仮設住宅の建設もままならず、大勢の方が学校などの避難所で生活をしていましたので、その時と比べると仮設住宅に移れたのは良いことなのかもしれません。しかし、震災以前の生活と比べるとまだまだ劣悪な環境であることに変わりはありません。行政に対しては、「被災者を向いた復興」をし続けてもらうことを切に願います。

２年半が経過しても放置されたままの野蒜駅（東松島市）

福島と同様の事故が起きていた!? ～女川原子力発電所～

宮城県牡鹿郡女川町には、東北電力管轄の女川原子力発電所があり、その近隣には「女川原子力ＰＲセンター」という施設があります。今回は女川町会議員高野博さんにお話を伺いながら施設見学しました。

震災では、福島第一原発の事故により、今現在も放射能汚染や汚染水漏れなどマスコミ各社が毎日のように報道をしています。しかし、女川原発も同様の事故が起きる一歩手前まで危機が迫っていたことはご存知でしたでしょうか？

女川原発は、海面から14・8メートルの高台に設置されていましたが、震災による地盤沈下で1メートル地盤が下がっていました。一方、女川原発付近を襲った津波の高さは13メートル。あと80センチ津波が高ければ、女川原発も津波に襲われ、福島第一原発と同様の事故が起きた可能性があったのです。また、5つの送電線のうち、4つは送電停止に陥り、しかも全線復旧した後も、その後の余震で別の4つが送電停止に陥るという不安定な状態が続いていました。しかし、東北電力は津波の危機や送電の不安定さについては一切触れず、〝完全停止に陥らなかったこと〟による安全・安定供給のみを取り上げました。

また、近隣住民の避難先としてＰＲセンターや隣接する体育館を解放して多くの人命を助けたことを取り上げていましたが、住民の方々は逃げたくてそこに逃げたわけではありません。震災3日後に高野さんが体育館を訪れると、住民の方は「早くここから出たい」と訴えたそうです。それが、何を意味するのか…。

たしかに、原発による国からの援助により、原発は町に金銭的な利益をもたらしたのかもしれません。しかし、お金よりも大事なものを、近隣住民の方々は知っていたのだと思います。

法律事務所としてできること

この視察には、「震災時、法律事務所として何ができるのかを学ぶ」というもう一つの目的がありました。石巻市内に事務所を構える庄司慈明税理士からは、ご自身の避難所での活動、仙台市内に事務所を構える菊地修弁護士からは、仙台弁護士会や法曹団体による出張法律相談や震災を悪用した宮城県政の問題点などについて伺うことができました。

女川原子力発電所。計３基からなる

当事務所においても、緊急時に法律事務所として何ができるのかをこれまで議論をしてきました。その中で、速やかに市民の皆様のお役に立てるように動くためには、日頃の準備はもちろん、今まで以上に関係を保ち続け信頼を得ることが大切であると思います。その繋がりが、いざというときに大いに力を発揮するものと信じています。

最後に、この東日本大震災は、阪神大震災と異なり「地震被害」「津波被害」「原発被害」が複合的に絡み合い、問題を複雑化しています。どの被害に遭われたかによって、被災者が抱える問題も異なります。現在の報道では、原発被害のみが大きくクローズアップされ、あたかも東日本大震災の被害が原発のみであったかのような錯覚を起こさせますが、決してそうではありません。私たちは、全ての被害において風化をさせず、復興を願い、支援を続け、そしてそこから学ばなければならないと思います。